

## 「ドッグウッド・シティ」アトランタ

菅 野 峰 明

アメリカ合衆国ジョージア州の州都アトランタは、昨年4月に東京で開かれたIOC総会で1996年の第25回夏季オリンピックの開催地に決定した。近代オリンピック100周年記念大会は、発祥地であるという、ライバルのアテネを抑えての誘致成功は、アトランタの経済力の勝利とまでいわれている。アトランタは、合衆国南東部の経済・文化の中心地で、オリンピックのスポンサーを続けてきたコカ・コーラ本社、最近ペルシャ湾岸からリアルタイムで戦争報道を続けているCNNの本社、そして日本とも定期航空路線を持つデルタ航空本社などがあり、オリンピックをバックアップするのに十分な経済基盤を備えている。

アトランタは、私が20年ほど前にジョージア大学大学院に留学中にPh.D.論文で研究対象とした都市である。当時社会的には、人種差別が無くなっていたとはいえ、白人と黒人の住み分けが明確になっているアトランタのダウンタウンや郊外住宅地、そして黒人住宅地などの土地利用調査をして歩き回ったことを思い出す。アトランタはアパラチア山地南西部のピードモント台地に位置し、ゆるやかな起伏の土地に市街地が広がる。アトランタのメイン・ストリートのピーチツリー・ストリート（Peachtree Street）はアトランタのダウンタウンの最も高いところを南北に走り、そこから左右へは坂道になっている。ピードモント台地の中で標高の高いところにダウンタウンが発達したのはアトランタの町の歴史と関係がある。アトランタは、テネシー州のチャタヌーガからジョージア州へのWestern and Atlantic鉄道の終点として、現在のFive Points（五差路）のところに駅が建設されて、集落はTerminus（終点）と名付けられた。このFive Pointsは、大西洋とメキシコ湾の分水嶺に位置しており、その後、ここに四つの系統の鉄道が集まり、アトランタは鉄道の要衝となったのである。

アトランタの郊外の住宅地は、南と北では景観が大きく異なる。北の住宅地は、南部松の林の中

に敷地面積の広い住宅地が点在し、中には伝統的なプランテーション風の建物もある。そして、これらの住宅地は春になるとドッグウッド（ハナミズキ）の赤、ピンク、白、黄色の花に取り囲まれる。ドッグウッドは桜とはちがって花の咲いている時期が長いから、きれいな光景が長く楽しめる。夜になると家々の窓から出る光でドッグウッドの花が照らし出され、夜のハナミズキ風景を楽しむことができる。一方、南の住宅地は主に黒人住宅地となり、樹木に囲まれた住宅地はなくなる。建物と敷地もそれほど大きくはなく、建物の密度も高い。これら二つの住宅地域の境目は自然的境界（川）、あるいは鉄道となっている。黒人住宅地と白人住宅地の発展過程を調べてみると、今では古典的な理論とされているホイットの扇形（セクター）説がよくあてはまる。黒人住宅地は川や鉄道を越えて白人住宅地に拡大することはないのである。

ジョージア大学大学院へ留学していた頃は、アトランタにやっと日本総領事館ができた頃であり、毎年正月になると総領事館がわれわれ留学生をお正月のパーティーに招待してくれた。アトランタ周辺に日本人が少なかったために、このようなことが可能であったのだろう。今では、合衆国の中でカリフォルニア州に次いで日本の企業が多いジョージア州は、アトランタ周辺に日本人が多くなったし、デルタ航空や日本航空が成田からアトランタへ直接、ビジネスマンや日本人観光客を運ぶようになった。いまや、映画「風とともに去りぬ」のイメージでアトランタを訪れると、近代的なオフィスやホテル、デパートの立ち並ぶピーチツリー・ストリートをみて驚くであろう。市内にある、第39代合衆国大統領ジミー・カーター記念図書館には、日本のYKKが寄贈した立派な日本庭園があり、読書や資料探しで疲れた目を癒してくれる。アトランタは意外と日本に近いものになったのである。

（埼玉大学）